幼稚園創立90周年の年にあたって

昔の幼稚園の想い出

林　赳　子

本年は日本に幼稚園が誕生して、九十周年になります。私の幼稚園は、明治四十三年七月一日に開園して五十六回目の卒園式をいたしました。私の幼稚園時代明治三十一年頃の記憶に残っているものも添えて、古いおもいでを綴ってみます。ほんとうに話のような事実があるのです。そんな世の中であったのかと、御想像下さいませ。私の幼稚園時代は申すまでもなく、私の幼稚園の創立当時も、幼稚園にたいしての、理解も認識も薄かったので、幼稚園の数も少なく、入園者もあまり多くなかったので、一組の人数も適当でした。

園舎はもちろん木造ですが、障子が紙張りでしたから、園児が破ったり、紙の色が変色したり、障子の骨が折れたりすれば、その修理に余分な時間や労力を費やしました。硝子障子になったのは、大正年代に入ってからと思っています。保育室と申しましても、小学校の教室と同じようで、机も小学校の型で、腰掛も二人がけで、ただ高さを加減したにすぎませんでした。

私の幼稚園時代の先生と呼ばれた人の服装は、和服で帯を結んで、髪の形は「丸まげ」、「いちょうがえし」の日本髪で、履物は「草履」か「こま下駄」を多く用いました。お掃除など、はたらく時は、たすきをかけ、前かけがけでした。園児は男は筒袖、女は元禄袖のきものに「へこ帯」をしめ、エプロンをかけて登園しました。私が初めて勤務した大正三年頃は、先生の服装はやはり和服でしたが、帯はしめなくなって、袴になりました。長い袖の時は「たもとの先」を袴の紐のあたりにさしこんでしました。袴は終戦前まで、つづいていました。髪は束髪になりましたが、その束髪も次々といろいろな流行型が変ってきました。写真を見ると実に笑の種です。

大正三年頃からボツボツ洋服が園児の中にあらわれてきました。登園の状況はといえば、みんな歩いて行きました。乗物は人力車が多く、あとは自転車ぐらいでしたから、現代のような交通事故の心配もありませんでした。大雨でも降れば人力車で送り迎えをしましたけれども、それも極く稀でした。人力車につづいて国民車があらわれ、しばらくの間は人力車と国民車が交通機関として便利を与えていました。雨の日には傘をさしてきて氏名は傘の内側の紙のところか柄に記しましたが、傘をひらく時、よく注意しないと、つっついて破るので、苦労の種でした。洋傘は大正年代へ入ってから、だんだん使用するようになったように覚えております。

保育時間は午前九時から午後二時頃まででした。保育の実際は時間割的で、先生のたてた計画通りに行なわれ、時間でくぎりをつけて行くのでした。集合の時、室に入る時は、明治の末期あたりには「かね」をならして合図をしましたが、大正のはじめ頃には、「お集まり」とか「おへやへお入り」といって、先生たちが手をたたいて、合図をするようになりました。

次に保育の実際はどのようであったか、どのように変ってきたか、述べてみます。

「オルガン」はなかなか買えませんでした。明治四十三年に私の幼稚園が創立した当時でも、遊戯室に一台あって、遊戯をする時には、その組がオルガンの伴奏で、うたったり、おどったりして、他の組では、先生がうたって、きかせて、伝授するのでした。

ですから先生たちは、調子をはずしては大変だと、一生懸命に、歌や遊戯の練習をしたものでした。大正の中ごろから漸次オルガンを各保育室にも備えるようになってきて、保育上に活気をもってきました。

幼稚園でうたう歌といえば古くから「桃太郎」「金太郎」「兎と亀」「蝶々蝶々」「ひらいた、ひらいた」「椿やつばき」「朝の歌＝カラスがカアカアないている」など多く伝えられ用いられてきましたが、大正の中頃すぎのように思っておりますが、新しい童謡がとりいれられてきました。

遊戯は模倣遊戯といって、うたの文句を形にあらわしたようなその踊りを、先生のやるのを真似して、みんなそろってやるのでした。この模倣遊戯は随分ながくつづいてきましたが、しばらくして表情遊戯ととなえるようになり、また歌をうたわないで、表情でする律動遊戯といわれた遊戯もとり入れられて、終戦までつづきました。しかし、新憲法公布につれて、幼稚園教育内容が文部省の指導によって一新され、音楽リズムとなり現在に至りました。

今は絵画製作といいますが、昔は「お細工物」、「おえかき」、「画き方」とか申しました。「豆細工」、「紙だたみ」、「貼紙」、「剪紙」などをして、一週間に二回位お土産にもたせてかえしたものでした。糊は、現在のような糊はありませんでしたから、「うどん粉」や「メリケン粉」をねばるようによく煮て、小皿に分けて与えました。紙面が許されるならば、どのようなものを、どのようにしてつくらせたか述べてみたいのです。

けれども残念ながらお許しいただきます。ただ一言だけ申しますならば、遊戯と同じように、ここにも模倣による指導が行なわれていたことです。先生が示したようにつくらせたのです。そればかりでなく、先生のお手本と違えば、たたみ直させたり、貼り直させたり、なお丁寧にあとで手を加えたりしました。今おもえば、こども自身の力でするということを尊重しなかったのだと思います。

勤務は午前八時までに出勤し、午後五時から六時頃まで熱心につとめました。忠孝一途の時代でしたから、職場は戦場と一緒だといわれ、家庭を犠牲にしてもというきびしさと真面目さでした。かえりがおそくなっても少しも文句などいわず、強い責任感からむしろ、働くことを誇りとしていました。大正のはじめ頃は、まだランプをつかって電燈がついていることは珍しかったので、かえりが夕方になった時は提灯をつけてかえり、幼稚園ではランプをつけて残務をとりました。

また忘れられないことは、一月一日、紀元節、天長節などいろいろの行事上で、式をあげる時必ず「勅語」を奉読したのですが、この勅語を奉読する時の緊張さでした。勿論そのはじめからおわりまでの態度は厳粛なものでした。これはみなさんもご存じのことと思いますが終戦と共に姿を消しました。終戦まででも、古い伝統をうけついで、その時代時代の動きにつれて、いろいろ変遷したことを記せばきりがありません。フレーベル主義とか、モンテッソリー主義とかまたは一斉保育、自由保育など一日の流れにおいてさまざまの保育方法が行なわれました。

その時代時代の教育思潮による教育の傾向があったのです。現代から考えれば、随分おくれていると思われますが、終戦後新しい憲法が公布され、教育基本法による学校教育法の中に一連の姿となり文部省から幼稚園教育要領や各領域の指導書が発行され、指導者講座も開かれて、全国歩調をそろえて就学前の教育へ進んでいますが、まだ、古い昔の伝統の殻が、ぬげない点があることを深く反省するとき、うなずけると思います。

古い昔をふりかえってみて、実に今昔の感に胸せまるものがあ

ります。今の世代に欠けているもの、古い年代の歴史の中にも尊いもの、学ぶべきものがあります。一概に古いふるいとはいえないと思います。お互に、それぞれの園の経営管理に力を注ぎ、自己の利慾をすてて、明るく楽しく仕事に打込んで、幼児教育の使命達成に精進して行かなければと、つくづく思わせられます。

御参考までに私の幼稚園の保育料と入園料が変更されてきた実状を記載しておきました。

年号	年	保育料	入園料
明治	四三	六〇銭	五〇銭
大正	三	七〇銭	六〇銭
大正	七	八〇銭	六〇銭
大正	八	一円〇〇銭	六〇銭
大正	九	一円三〇銭	一円〇〇銭
大正	一〇	一円五〇銭	一円〇〇銭
大正	一四	一円八〇銭	一円〇〇銭
昭和	一七	二円五〇銭	一円〇〇銭
昭和	二一	八円〇〇銭	五円〇〇銭
昭和	二一	一五円〇〇銭	
昭和	二二	三〇円〇〇銭	一〇円〇〇銭
昭和	二三	八〇円〇〇銭	三〇円〇〇銭
昭和	二三	一五〇円〇〇銭	一〇〇円〇〇銭
昭和	二五	三〇〇円〇〇銭	二〇〇円〇〇銭
昭和	二七	五〇〇円〇〇銭	三〇〇円〇〇銭
昭和	二九	六〇〇円〇〇銭	五〇〇円〇〇銭
昭和	三一	七〇〇円〇〇銭	五〇〇円〇〇銭
昭和	三二	八〇〇円〇〇銭	五〇〇円〇〇銭
昭和	三三	八〇〇円〇〇銭	五〇〇円〇〇銭
昭和	三四	八〇〇円〇〇銭	五〇〇円〇〇銭
昭和	三六	一、〇〇〇円〇〇銭	五〇〇円〇〇銭
昭和	三七	一、三〇〇円〇〇銭	一、〇〇〇円〇〇銭
昭和	三八	一、六〇〇円〇〇銭	一、〇〇〇円〇〇銭
昭和	三九	一、八〇〇円〇〇銭	一、〇〇〇円〇〇銭
昭和	四〇	二、〇〇〇円〇〇銭	一、〇〇〇円〇〇銭
昭和	四一	二、五〇〇円〇〇銭	二、〇〇〇円〇〇銭

（静岡県　学校法人桜花幼稚園）